

# 現場の記録から

群馬事業本部 渋川事業所 石井 力

## 豪雪地域の点検は1日かかり。 雪の吹き込み事故防止に早めの備えを



私が所属する渋川事業所は、群馬県の北部がサービスエリアになっています。冬には深い雪に埋もれる山間部があり、そうした豪雪地域のお客さま施設にも点検にお伺いしています。

毎年12月から3月までは、冬期通行止め規制区間ができるため、豪雪地域のお客さま施設の点検に向かう時には、道路の通行許可が必要になります。

私が受け持つ、そうした地域にあるお客さま施設は、冬期は休業しています。除雪されるのは生活道路のみ。通常2車線の道路も、冬期は車1台分しか通行できなくなります。

積雪は2m近くになり、道路標識の上部が膝の高さくらいになります。車で訪問する際は、ス

リップにも注意しながら、慎重に運転しなければなりません。当然、通常より多くの移動時間を要します。

お客さまの施設の駐車場に到着すると、スノーシューに履き替えます。積雪による道なき道をたどってキュービクルまで移

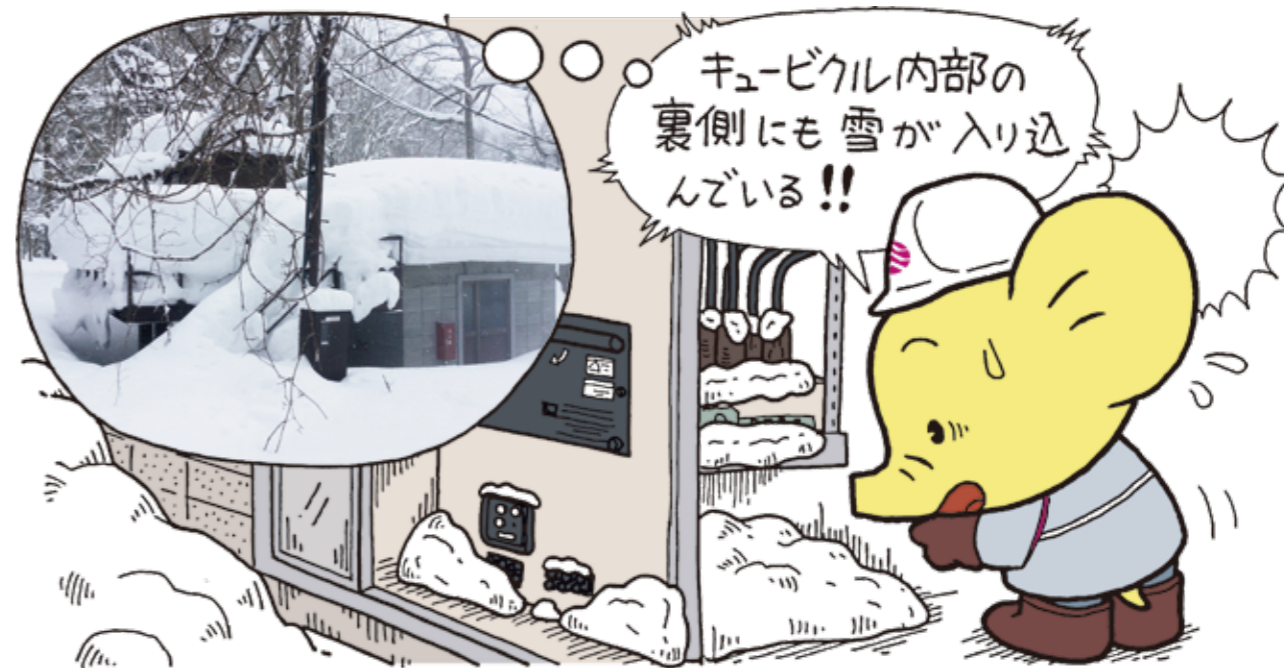
動します。やっとたどり着いたら、今度は雪かきです。雪に埋もれたキュービクルの扉を掘り起こすために、1時間以上かかります。

まだまだです。キュービクルの扉の地面近くは凍結しており、そのままでは扉を開けません。持参したピッケルで凍結した氷を削って、やっと扉を開けられ、点検を開始できるようになります。

このように豪雪地域では移動や準備に時間を要し、1日1軒しか点検できないこともあります。

さて、今回ご紹介するのは、現場は異なりますが、大雪により起きた事故事例です。

関東地方を記録的な大雪が襲った日のこと。お客さまから停



電の連絡が入りました。なにしろ、記録的大雪です。当日はとても対応することができませんでした。お客さまにご了解いただき、翌朝に対応させていただくことになりました。

次の日、現場に到着し調査したところ、UGS（地中線用負荷開閉器）が開放状態でSO（過電流ロック）表示が出て停電していました。つまり、キュービクル内で短絡事故が起きていたことを意味します。

キュービクル内を点検すると、VCB（真空遮断器）およびVT（計器用変圧器）が焼損していました。焼損まで至った原因を調査した結果、キュービクル内部に雪が吹き込み、VCBの上に積雪。その雪が融けることによって絶縁低下を起し、VCBが相間短絡して焼損、VTも焼損してUGSが動作し、停電したものと判明しました。

お客さまの施設は、第2キュービクルがあり、事故が発生したのが受電キュービクルだったので、第2キュービクルのVCBを受電側に移設し、焼損したVTは取り外して仮復旧しました。第2キュービクルは、VCBの電源側と負荷側を直接接続して仮送電しました。

この事故の原因は、キュービクルの扉や通気口から雪が吹き込んだことでした。対策として、キュービクルの扉のすき間をパッキンでふさぎ、キュービクル

上部の通気口部には雨水防止板を設置する必要性をお伝えしました。

電気設備は雨水や雪などの浸入への備えが肝心です。キュービクル内に雨や雪が吹き込むと、事故や故障の原因になります。台風シーズンや降雪期など、気象条件が厳しくなる前に、キュービクルにすき間や損傷箇所がないか確認し、早めに補修しておくことをお勧めします。

